

立命館守山中学校・高等学校 2023 年度学校教育活動総括

教育目標

基本目標：立命館の建学の精神「自由と清新」、教学理念「平和と民主主義」を体現し、本校が目指す「新たな価値やルールを生み出し、社会に変化や希望を与えることができる『ゲームチェンジャー』」を育成する。 重点目標：「4つのスキル」の獲得（4Cs＝ゲームチェンジャーが獲得すべきスキル） ① Critical Thinking（批判的思考） ② Creative Thinking（創造性） ③ Communication（コミュニケーション） ④ Collaboration（協働）
--

中期目標（上位目標）

■入試課題 I.ゲームチェンジャーの素養を備えた生徒の獲得（学校ブランド力の強化）： 制度改革と広報強化による安定した入試の実現 ■教学課題 II-1.自律した学習者を育成する質の高い教育の展開： 自律した学習者を育成するカリキュラムや評価システムの改善 II-2.特色ある教育プログラムの推進・高度化 探究・グローバル・サイエンス・フロンティア教育の推進・高度化 III.社会や世界とつながり、自己実現できる力の育成： ルールメイクや社会参画を通して自己実現を目指す体験機会の充実 ■管理運営課題 IV.ゲームチェンジャーの育成を実現する学校教育力の高度化： 教職員の教育力向上、保護者との連携、安心・安全な環境づくり V.保護者や地域・社会に開かれた学校づくりの推進 保護者、地域から信頼され、互いに協力できる関係づくりの推進 ■将来構想問題 VI.2030 チャレンジデザイン課題の推進： 学びの内容・方法・空間の改革 20周年記念事業の企画・立案、同窓会組織の強化
--

I. ゲームチェンジャーの素養を備えた生徒の獲得（学校ブランド力の強化）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	入試制度改革と広報強化による高い資質を備えた生徒の獲得	(1)	高い資質を備えた受験生の獲得・入学者数の適正化を実現する入試制度改革	◎
		(2)	広報 Web 化の推進、教育成果発信の充実	◎
		(3)	生徒・保護者の「教育評価・満足度」の上昇	◎

II. 主体的な学び・姿勢を育成する学びの改革実現

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	個別最適化による確かな学力の定着	(1)	基礎知識やスキルの定着	○
		(2)	外部模試、検定資格における各学年・コース目標の達成	○
		(3)	放課後自習室（個別最適化）の受講実績の向上	◎
2	主体的に学び続ける力を育成する評価法の改革	(1)	日常的な多面的評価法の効果的運用、生徒変化の出現	◎
		(2)	高校グローバルコースの選考方法や進級基準の見直し	◎
		(3)	高校内部推薦の校内選考特別枠（ゲームチェンジャー枠）の新設	◎

III. 特色ある教育プログラムの推進と成果の創出

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	【探究的学び】探究・社会実装の学びの高度化	(1)	特色ある教育プログラムへの肯定的評価の上昇	◎
		(2)	社会と積極的に関わる探究活動の充実、全体への普及	◎
		(3)	探究学習成果の外部発信、外部評価の獲得	◎
2	【グローバル】マインドを鍛えるグローバル教育の推進	(1)	4つのスキル（4Cスキル）獲得・定着度の伸長	○
		(2)	海外チャレンジプログラム参加者数の増加	◎
		(3)	課題解決型の海外研修プログラム新規開発、実施	◎
3	【サイエンス】理数・科学教育の高度化と人材の育成	(1)	英語運用能力の向上、英語コンテストによる成果創出	○
		(2)	課題研究力（問題発見、テーマ設定、研究計画策定、発表）の伸長	○
		(3)	中高大院一貫した新たな接続プログラムの開発	◎
4	【フロンティア】学びで進路を切り拓く力の育成	(1)	理工系学部への内部進学者の増加	△
		(2)	国公立大学、医療系大学への現役合格者の増加	○
		(3)	キャリア教育と連動した研修（国内・海外）の充実	◎

IV. 学校づくりに主体的に参画する姿勢を育成する文化の醸成（高い当事者意識を持つ集団づくり）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	自立した生徒を育成するリアルな体験活動の充実	(1)	生徒の自己肯定感、達成感を高める生徒主体による行事運営活動の充実	◎
		(2)	個々の生徒に応じた支援的アプローチ重視の生徒指導の推進	◎
		(3)	仲間・帰属意識を醸成する部活動相互応援機会の創出	○
		(4)	生徒・保護者の「行事・部活動満足度」評価の数値上昇	◎
2	生徒に意思決定させるルールメイク機会の充実	(1)	生徒会執行部と学校管理職による定期協議会の開催	○
		(2)	生徒との対話によるルール改正、学校づくりへの生徒参画の実現	◎
		(3)	生徒会の指導力向上を目指す組織体制の見直し	◎

V. 教職員の力量向上と教育力を高める環境の向上

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	教員の指導力・授業力向上を目指す組織的支援の充実	(1)	教員と職員が互いに支え合う協働体制の構築	◎
		(2)	次世代教員養成を目的とした校内研修の充実	◎
		(3)	教育実践や成果の学外発信、公開研究会の開催	○
		(4)	生徒・保護者の「授業・生徒対応満足度」評価の数値上昇	△
2	教職員間におけるコミュニケーションの充実	(1)	日常コミュニケーションの充実1（学校課題・生徒情報の共有）	○
		(2)	日常コミュニケーションの充実2（生徒への声掛け、挨拶の励行）	○
		(3)	教職員チーム対応力の強化、組織体制の整備・充実	◎
3	教育効果を高める働き方環境・条件の整備	(1)	外部専門人材の活用、大人定数コンセプトによる教職協働の実現	◎
		(2)	分掌組織の改編、業務の合理化・再整理の推進	◎
		(3)	クラブ改革を軸とした超過勤務削減の取り組み推進	◎
		(4)	有給休暇取得の推進	◎

VI. 保護者や地域・社会から信頼される学校づくりの推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	生徒が安全に安心して学べる環境づくり	(1)	生徒の心に寄り添う指導の充実（生徒相談・観察の充実）	○
		(2)	生徒が安心できる居場所・環境づくり	◎
		(3)	いじめに対する理解と迅速な対応（情報や対応の共有・統一）	○

		(4)	教職員のコンプライアンス意識の向上、研修・啓発活動の充実	○
2	保護者とのコミュニケーションの充実	(1)	PTA 各学年委員との定期懇談会の開催	◎
		(2)	学校教育や指導に対する保護者理解の推進	○
		(3)	「子どもの育ち」を支える「親業」研修の実施	◎
3	地域・社会とつながった新たな取り組みの実現	(1)	生徒の地域交流・社会貢献活動への参加奨励	○
		(2)	企業との共同研究活動の取り組み推進	◎
		(3)	クラブ運営の外部委託、社会スポーツクラブの設置	○

VII. 2030 年チャレンジデザインの具体化

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	学びの内容・方法の改革	(1)	探究的学び、個別最適な学びに重点を置いたカリキュラム改革	◎
		(2)	探究型授業、アクティブラーニング実施率の上昇	◎
		(3)	生徒授業評価、保護者「授業・生徒対応満足度」評価の上昇	△
		(4)	コース再編、高校制度改革の具体化と広報活動の展開	○
2	デジタル・AI 技術を活用した教育の高度化	(1)	高校授業におけるタブレット端末とパソコンの積極的活用	○
		(2)	Web 学習アプリや校務支援システムの積極的活用	◎
		(3)	学習・活動履歴管理システム（LMS）の共同研究開発	△
3	新たな学びに対応した施設・設備の改修	(1)	中学 1 号棟の教室・廊下改修（ラーニング・コモンズ化）、効果検証	◎
		(2)	高校棟の机・椅子の入れ替え	◎
		(3)	第 2 次アクションプランの策定・具体化	○

VIII. 創立 20 周年記念事業プロジェクトの推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	20 周年記念事業計画の具体化	(1)	周年事業準備委員会の発足	○
		(2)	周年記念事業の企画検討・具体化、校舎改修計画の具体化	○
2	同窓会ネットワークの再編・強化	(1)	追跡調査による卒業生ネットワークの再構築	△
		(2)	卒業生・卒業生保護者との定期的交流や交流支援策の具体化	△

達成状況

①	滋賀県全体の志願者数が大きく減少するなか、入試志願者数を安定的に確保した（中学 734 名、高校 373 名）。
②	外部委託放課後補習講座「寺子屋+R」を開講、希望者に学びの個別最適化を実施し、学習習慣の定着に一定の成果があった。
③	2023 年度高校入学者対象に、GL コースへの進級・転コース条件の見直し、探究や社会貢献活動等を重視する学内選考特別枠の新設等、学びの動機づけを促す仕組みづくりに着手した。
④	探究・STEAM の全国コンテスト入賞者を多数輩出、インターネットラジオ番組の生徒運営等、社会実装の学びがすすんだ。
⑤	中高海外研修の新規プログラム・コースを実施、個人の海外留学 56 名参加、カナダのダブルディプロマを 2 名が取得した。
⑥	理工学部連携の空間共有システム活用、サイエンス系各種イベント実施等、SSH 認定校としてのサイエンス教育を展開し、ロボカップジュニア世界大会 4 位入賞、滋賀ジュニアリサーチグラント最優秀賞受賞等の成果を挙げた。
⑦	高校フロンティアコースを中心に、難関国公立（京大 1、阪大 1、神戸 5、筑波 1 等）、医療系（自治医 1、滋賀医 2、旭川医 1、兵庫医 1 等）、他大学進学において成果を挙げた。
⑧	中学では、男子陸上部 100m×4 リレー全中準優勝、アメフト春季全国優勝（秋季準優勝）、ウィンドサーフィン大会で部門優勝、高校ではバトントワリング部全国準優勝の他、将棋個人が藤井名人と対局する等をはじめ、多くのクラブ・個人で全国レベルの成果を挙げた。

⑨	中学では、生徒会・PTAとの継続した検討を経て携帯電話持込許可制を実現、自治意識の向上に繋がった。高校でも、生徒を中心とした学校行事の企画・運営に加えて、校則を生徒主体で創っていくルールメイキング活動により生徒が学校運営に参画する文化が確立しつつある。
⑩	長期にわたるコロナ禍を経て、保健室来室者が増加するなか、スチューデントサポーターを配置し、生徒支援体制を強化した。また、メタバース保健室を生徒参画により開設し、マスコミからも注目を集めた。
⑪	PTA 学年委員との学年別懇談会を計6回開催し、保護者との連携を深めた。また、数回の親業講座を実施し、子どもの自律を促す学びの機会を通じて、保護者自身が成長する取り組みの端緒となった。
⑫	駅前ダンス教室でのリツモリコース開設に向けた株式会社 Think との教育連携、新開発繊維素材による株式会社ピエクレックスとの実証研究等、地域・社会連携を通じた生徒の体験や学びの機会を創出した。
⑬	中学棟の一部教室改修工事を実施し、教室のオープン化、ラーニングコモンズ化に着手した。また、高校入学生から MacBook 活用の開始、机椅子の更新を実施した。

改善策

①	学びの改革において、高校単位制の導入を中心に教育システムや評価のあり方の検討を開始したが、最終的な成案には至らなかった。次年度の最重要課題として継続した検討を続ける必要がある。
②	一部の意欲層は様々な学ぶオプションを活用し驚異的な成長を遂げる一方、全体として見たときに生徒の学びにはまだまだ伸びしろがある。すべての生徒が真に「主体的に学ぶ」姿勢を持てるよう、教員からの働きかけ、支援が必要である。
③	働き方改革が進行し、コミュニケーションツールが発達する一方で教員間対話の機会が減少し、学校が掲げる理念や大局の方針への認識の不一致が懸念されてきている。
④	環境改善の第1次アクションプランは明確となっているが、第2次アクションプランの具体化はこれからである。教員と生徒のコミュニケーション促進のための施設改善が必要である。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	大崎 裕士：守山商工会議所会頭 亀田 晃巖：唯明寺住職（元学校法人立命館常務理事） 久野 信之：学校法人立命館一貫教育担当常務理事 向坂 正佳：滋賀県守山市教育委員会教育長 渋谷 成子：立命館守山早苗会相談役 高山 茂：立命館大学理工学部長 中島 智宏：立命館守山中学校・高等学校 PTA 会長 眞下 忠：神港精機株式会社代表取締役会長 松浦 博：滋賀医科大学副学長
開催日程 主な議題	○ 日時：2024 年 4 月 25 日（木）文書による審議 ○ 議題：2023 年度学校教育活動総括について
評価・改善 事項	①2023 年度学校教育活動総括に対する学校の自己評価は達成目標に対して適切に行われている。 ②学校が教育の改善に向けて取り組んでいることはよくわかる。 ③令和の日本型学校教育においては、個別最適な学びと協同的な学びを一体的に進めることが大切である。多様な人とかかわりより良いものを創造していくうえで、協働同的な学びは欠かせないため、その視点でどのように取り組むのかをさらに明確にしてはどうか。 ④総括するためには数値目標を設定し達成度を分かり易くすることが必要である。 ⑤教育目標として、ゲームチェンジャーの育成を掲げられて多面的に様々な教育活動・取組を実施されており、成果をあげている。 ⑥育成すべき姿勢として「他者を尊重し協働する姿勢」を掲げられており、これも大変共感できる。その評価方法（入学時、各学年、卒業時）についても興味をもっている。 ⑦地域社会における生徒の行動に対して、地元・地域から指摘を受けないような取り組みが必要。 ⑧同窓会組織の強化・向上・取り組みについて、各機関・各同窓会と連携があれば良い。